

令和4年度 第2回 蕨市立図書館協議会 会議録

- 開催日時 令和5年3月25日(土) 午前10時から午後0時まで
- 開催場所 蕨市立図書館 3階 会議室
- 議題 (1) 令和5年度事業計画及び予算について
(2) 令和4年度蔵書点検の結果について
(3) わらび電子図書館の利用状況について
(4) 蕨高校図書委員会お薦め本コーナーの模様替えについて
(5) 行政資料の収集について
(6) リサイクル本(令和3年度発生分)の利用者への提供について
(7) 図書資料の貸出冊数上限数の検討について

- 出席者氏名 <出席委員>
町田 敏子会長、原田 卓治委員、椿 智絵委員、岡本 和子委員、
小西 政勝委員、近江 睦代委員、荻原 由美子委員、富岳 貴久雄委員
- <欠席委員>
蓮沼 昌代会長代理、高濱 直美委員
- <事務局：図書館職員>
佐藤館長、藤橋管理係長、塩野主査

会議経過

管理係長から開会し、館長あいさつ、会長あいさつ、資料確認の後、議題に入る。

(1) 令和5年度事業計画及び予算について

管理係長が議題1を説明し、質疑応答に入る。

委員：光熱水費への補正予算額はいかほどか。

事務局：168万円を追加した。令和4年度の決算の詳細は、次回の協議会で説明する。

委員：令和4年度分の電子書籍使用料は全て支出したのか。

事務局：全て支出済みである。なお、電子書籍は購入時から2年経過するか52回貸し出しをされると失効する。永続ライセンスや読み放題パックなどの選択肢もあるため、次年度以降もバランスを取って蔵書数を増やしていきたい。

委員：令和4年度と比べて図書館全体の予算額が500万円ほど減少しているが、原因は何か。

事務局：令和4年度は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の500万円があったため増額されたが、当該交付金は単年度のみで交付金となっており、令和5年度はその分が減額となった。

委員：AV資料はオンライン配信が増えている現状から利用者が減っていると思うので、前年予算をそのまま計上するのではなく利用状況を分析して一部を電子書籍予算に回してはどうか。

事務局：電子書籍については毎月10冊ずつ増やしていくなど、現在の予算の範囲内で定期的な拡充に努めることで真新しさを出していきたい。CDについては配信していない昔の楽曲を借りるなどの一定の利用があることから、予算については利用状況を見て臨機応変に配分を決めていきたい。

委員：電子書籍の読み放題パックを学校の利用に配慮して増やすということは、図書館の事業範囲を超えていると感じる。図書館向けの蔵書拡充に予算を向けていただきたい。

事務局：読み放題パックについては一般市民の利用者も使用可能となっているため、特に学校のみ利用

に配慮しているという認識はない。ご指摘のとおり市民向けの電子書籍も拡充していきたい。

委員：来年度の重点項目が不明瞭である。コロナから脱した世情を踏まえ、休止していた事業の復帰に努めるなど軽度な内容でも新規の取り組みを進めていただきたい。

事務局：読み聞かせを中心とした児童向け定期イベントをはじめ、今までコロナで休止していたイベントは概ね再開している。中学生ワーキングウイークについても、先日、第一中学校から受け入れの要請があり、令和5年度は再開の見込みである。ただし、ブックスタート事業は対象が4か月児と幼児であり、免疫力も低いことから再開できていない。保健センターと協議しながら再開時期を模索したい。

委員：事業計画や予算に関する説明は、昨年度の実績を振り返り、また新たな状況変化を踏まえ、本年度はどのような点に注力していくのか、重点課題としてどんな取り組みを行っていくのか、などの基本的な考え方・基本方針といったものを先ず記載したうえで、各論としての個別事案・施策の説明を行うべきと考えるが、現状は各論のみの説明に終始している。

事務局：次年度以降の資料作成の際に工夫していきたい。

委員：予算・事業計画策定にあたっては、イベントなどの狭義の内容だけでなく、図書館としての重点項目の設定や利用件数をもとにしたサービス計画の検討が重要であると以前から申し上げてきた。他の委員からも同様の意見があることから、ぜひ実施いただきたい。

(2) 令和4年度蔵書点検の結果について

管理係長が議題2を説明。質疑応答なし。

(3) わらび電子図書館の利用状況について

管理係長が議題3を説明し、質疑応答に入る。

委員：電子図書館の開設は将来につながる取り組みとして高く評価している。今回は開始直後ということもあり数字のみの資料となっているが、次回から改善点がわかるように統計項目を決めて実績のアウトプットをお願いしたい。もっと多くの市民に使ってもらえるよう運用して欲しい。

委員：電子図書館の当初計画の目標と現在の利用実績はどうか。

事務局：当初閲覧冊数目標を4,000冊としていたところ、3月1日時点で15,379冊の利用実績となっており、目標値を大きく上回ることができている。また、15,379冊のうち半分強の8,676冊が学校利用であり、11月1日に開始した学校での利用が利用実績に大きく貢献していることが分析できる。

委員：どのような方針や基準で電子図書館用の電子書籍を購入しているのか。

事務局：通勤中の利用などを想定して小説やビジネス書、自宅用のハウツー本など需要があるものと想定される人気のコンテンツを主に拡充している。選書については物理書籍の利用実績をもとに担当者が行っている。

委員：現在は開設したところなので、電子図書館開設を周知し利用者を広げることが最優先だが、今後はリピート利用者が重要になる。個人的に利用した感触としては、大人向け書籍の取り扱いが少ないのでリピートしていない。閲覧書籍の鮮度維持もお願いしたい。

事務局：本年度はオープンにあわせて電子書籍の購入を集中させたため、以後の蔵書数拡充に繋がらなかった。来年度以降は定期的な拡充に努めていきたい。また、電子図書館用の電子書籍化は物理書籍の発売から半年以上経過してからと、かなり期間を要するため、どうしても鮮度が落ちるといふ事情もある。学校配布のタブレットにおける利用を通じて家族全体に働きかけるなど、プロモ

ーション方法を模索していきたい。

(4) 蕨高校図書委員会お薦め本コーナーの模様替えについて

管理係長が議題4を説明し、質疑応答に入る。

委員：蕨高校図書委員会お薦め本コーナーの取り組みは、若者の読書習慣向上につながる良い取り組みだと思う。協力者の高校生のモチベーションを高めるためにも、活動の輪を広げる取り組みを検討して欲しい。中高生による読書会の催しなど、若者主体のイベントなどを増やしてはどうか。

事務局：検討したい。

委員：お薦め本の貸出状況はどのようか。

事務局：貸出状況が分かる資料が手元にないため、後日、調べた上で報告したい。

(会議当日にお示しできなかった貸出状況につき、下記のとおり報告します)

R5.1.26～R5.4.5の貸出状況

1	コインロッカー・ベイビーズ	1回
2	桜のような僕の恋人	7回
3	ハリー・ポッターと賢者の石	3回
4	神様たちのお伊勢参り	4回
5	君の膵臓をたべたい	4回
6	氷菓	3回
7	羊と鋼の森	3回
8	かがみの孤城	4回
9	54字の物語	4回
10	きみの友だち	5回

11	推し、燃ゆ	1回
12	5分後に恋の結末	2回
13	同志少女よ、敵を撃て	3回
14	そして、バトンは渡された	3回
15	風の歌を聴け	3回
16	medium	3回
17	きよしこ	3回
18	探偵ガリレオ	1回
19	invert	4回
合計		61回

(5) 行政資料の収集について

管理係長が議題5を説明。質疑応答なし。

(6) リサイクル本（令和3年度発生分）の利用者への提供について

管理係長が議題6を説明。質疑応答なし。

(7) 図書資料の貸出冊数上限数の検討について

管理係長が議題7を説明し、質疑応答に入る。

委員：事務局としては貸出冊数上限を増やしていく方針なのか。

事務局：近隣市の状況を鑑みると、貸出冊数を増やすことが望ましいと考えているが、まずは図書館協議会委員の皆様の意見を伺いたい。

委員：倍貸し期間中の利用実績などで想定はできていると思うので無理のない範囲での貸出冊数の増加に努めて頂きたい。

委員：貸出冊数が増えた方が開架書架の蔵書数を増やせるとは思うが、闇雲に貸出冊数を増やすだけでは混乱を招く可能性がある。

委員：さいたま市、戸田市が30冊としている理由を確認した方がよいのではないか。両市の現状から、蕨市の5冊というのはあまりにも少ないが、蕨市の貸出冊数の上限を決める際には、他市の例も

踏まえて決めるのがよいと思う。

事務局：会計年度任用職員の予算も限られているため事務量の増加にも許容限界はあると認識している。

委員：貸出冊数を増やした時の懸念はあるのか。

事務局：宿題や自由研究などの課題が学校で出された際、宿題のテーマに関する書籍が奪い合いになってしまい、一部の利用者しか利用できなくなってしまうといった懸念がある。また、現在、分館まわりを週2回行っているが、返却ボックス回収のために週3回行く必要が出てくる可能性もある。

委員：学校と連携してはどうか。

事務局：事前に学校から情報提供をいただければある程度は混乱を回避できるかもしれないが、たとえ情報をいただけたとしても本を新たに購入し装備して書棚に排架するまでにある程度の期間を要するため、現実問題として困難であるとする。

委員：貸出冊数が多ければ良いというものではない。利用者に行き渡らせるような仕様にされたい。

委員：利用者としての意見だが、現在の予約枠5件では月1冊程度の貸し出ししか受けられていない。予約件数についても週1冊程度借りられる枠数にしていきたい。

事務局：検討したい。

委員：倍貸し期間中の利用実績を元に貸出冊数を検討してはどうか。特に絵本等の児童書はすぐに読み終わってしまうためぜひ貸出冊数を増やして欲しい。

事務局：分館まわりの回収回数の増加にも影響が出るため貸出冊数については慎重に検討していきたい。

委員：まずは利用者のニーズをもとに貸出冊数上限数を決定し、その後インフラを整えていくなど混乱を招かぬよう順序立てて実施していただきたい。

事務局：まずは実績のある倍貸しを元に実施していきたい。今後の流れとしては、定例教育委員会にて本日の協議結果を報告した上で協議し、市長の了承を得た後、蕨市立図書館設置及び管理条例施行規則の該当箇所を改正し、適切な時期に貸出冊数の上限を引き上げていきたい。

その他

管理係長から、新図書館の実施検討項目について説明し、質疑応答に入る。

委員：新図書館の指定管理事業者導入可否の検討の進捗はどのようなか。

事務局：開館2年前には具体化する予定である。

委員：新図書館の完成予定時期はどのようなか。

事務局：令和8年度の予定となっている。

委員：予算要求などの具体的な検討が始まるのはいつ頃か。

事務局：令和6年度頃から具体化する予定である。

委員：新図書館竣工までのスケジュールの情報提供をしていただきたい。

事務局：建物部分については図書館職員では関与できないところではあるが、これまで委員の皆様から出していただいたご意見は再開発組合にお伝えさせていただいている。スケジュール等の新たな情報を取得した場合は協議会でお伝えしたい。

委員：説明にあった実現目標については決定事項という認識で良いのか。

事務局：建物に関わる事項については再開発組合に要望として提出しているので実現できるものと認識している。その他の事項についても実現に向けて努力していきたい。資料については事業が具体化した段階でもっと詳細な資料をお出ししていきたい。

委員：検討課題のカフェエリアの運営形態については、館内に設置されながら採算面の都合からか撤退した実例を目撃したことがある。目的ありきで設置しては後々実態に沿わない可能性があるため

よくご検討いただきたい。

事務局：他市事例をもとに調査・研究していきたい。

委員：提供された資料には実施項目のみが記載されているなど情報が不足し、また協議会が関与できる範囲も不明瞭である。それらをもっと明確にしていきたい。

委員：この会議は、主として図書館運営に関する議案を中心に議論を進める場であると認識しているが、その枠組みを超えた事項に関する情報についての質疑に時間を取られている面がある。事務局として一定の仕切りを明確化していくべきと考える。

事務局：本年度はあまり動きがなく、事務局でも関与できる範囲は限られているが、今後とも取得した情報については協議会の場で提示させていただきたい。また、図書館として直接対応ができない事項については、担当部署に情報提供をすることで、市全体としての情報共有を図っていきたい。

委員：議会での新図書館に関する議題については来年度の協議会資料において報告するとあったが、今の段階でわかる情報の範囲においてご説明いただきたい。

事務局：開館時間の延長や図書資料の移設方法、南町分館機能について2名の議員から一般質問の提出があった。答弁内容等の詳細については次回の協議会でお伝えしたい。

管理係長から、①本日の協議会会議録の送付について、②本日の報酬について、③次回の協議会の日程についての3点を説明。

最後に近江委員から閉会のあいさつ。